

from France

里親探しを支えるホスト・ファミリーとは？

あるパリの情報誌で、引き取り手のいない猫や犬の里親探しで成功を収めている動物保護組織がある。と知った。その組織とはパリ12区にある「Club de Défense des Animaux de Paris 12ème (以下CDA)」。昨年は300匹の猫を引き取り、なんと250匹に里親が見つかったという。そして動物たちの預かり施設を持たないCDAの里親探しを支えているのがホスト・ファミリー制度、つまり里親が見つかるまで一時的に動物たちの世話を請け負う個人の家庭の存在である。

現在CDAに登録するホスト・ファミリーは約40軒。ホスト・ファミリーには大前提として愛情と責任感を持つことが求められる。CDAが定めた条件をクリアする必要がある。だが40軒も確保できたのはCDAが「無理なく動物と暮らす生活」を提案していることが大きな理由だろう。預かるのは猫なら最高で3匹、平均期間は2〜4ヶ月で、食費・医療費などの必要経費は全てCDAが負担する。これは動物と暮らしたいけれど時間・経済的な理由で諦めている人たち、例えば最後まで面倒を見る自信がない

高齢者や、一時的にパリに住んでいる学生にとっても嬉しいチャンスだ。またホスト・ファミリーにはそのまま里親になる優先権もある。支援を受けながらまずは一緒に暮らしてみること、飼うか飼わないかをゆっくり見極めることができるのだ。そしてCDAが引き取るのは捨てられるなど人間の事情により困難な状況に置かれている動物たち。人間不信に陥っている場合、一つの家庭内で落ち着いて暮らせることは、心身の回復期にある動物たちにとっても大切である。

もちろん里親探しでは組織としての連携プレーも必要だ。主に12人のボランティアが、一般や獣医からSOS通報を受けた動物を引き取り、健康診断やワクチン接種、ウェブサイトなどでの里親募集、里親決定後の家庭訪問などを行っており、その資金は500人の会員の寄付である。経理を担当するリュデユミラ・コーヴェさんは言う。

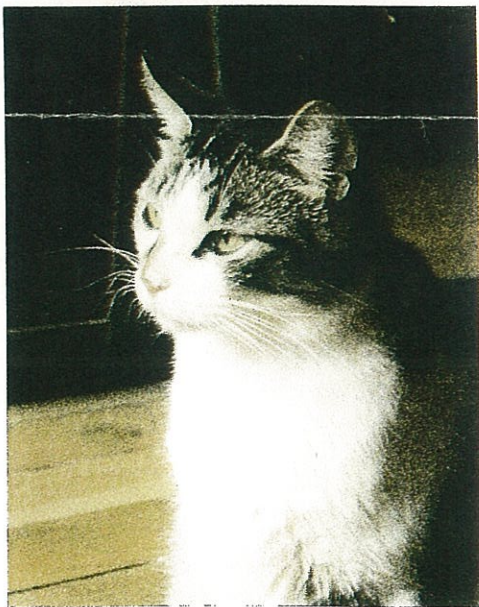
「いかに有効に資金を回すかは重要ですが運営に特に問題はなく、何よりも人間関係の良好さが成功に繋がっています。私たちが信じて支援してくださいる会員、獣医、ボランティア、ホスト・ファミリー、そして将来の里親の方々。動物の満足のためにそれぞれの立場で出来ることをし、協力し合える関係にあるのです」

住宅事情がパリのように基本的にペットOKではない日本では、ホスト・ファミリー制度は難しいかもしれない。でももしこの制度が日本にもあったとする。ホスト・ファミリーになれる家庭は潜在しているのではないだろうか？

(文堀晶代/写真CDA)
AKINO HON 日仏を往復するワイ
ンライター。著書に「リアルワイン
ガイドブルゴニユ」(集英社インター
ナショナル)。大阪の自宅には拾ったメイ
ンクーンとアメシヨウが2匹。



ホスト・ファミリーの一人、言語学を専攻中の学生。CDAの活動は、特に猫に関して認知度が高いという



アラゴン(♂)はヴァカンス中に草から放り出され捨てられた。余りにも怯えきっていたため、現場を目撃した女性が保護するのに数日かかったという。今はアラゴンを愛する新しい家族の下で幸せに暮らしているが、このような捨てられ方は稀ではない

Club de Défense des Animaux de Paris 12ème

1979年パリ12区にて動物保護の目的で設立された組織。里親探し以外の主な活動に、12区の公園や庭に暮らす地域猫や小動物の保護、経済的な事情などで動物を飼うことが困難な飼い主への援助があり、これらの活動への理解と関心を世間に訴えている。

<http://www.cda-paris12.com/>